

第74回国民体育大会選手選考基準

Ver.20190329【確定版】

(一財)栃木陸上競技協会 強化部

1. 国体予選競技会

- 栃木県陸上競技春季大会
- 栃木県高等学校総合体育大会陸上競技大会
- 栃木県陸上競技選手権大会
- 全日本中学校通信陸上競技大会栃木県大会
- 栃木県高等学校陸上競技学年別大会
- 国民体育大会陸上競技栃木県予選会

※上記1. の国体予選競技会に出場しなかった選手、または出場しなかった種目については選考対象外となる（下記2. の選考対象競技会のみでの出場では選考対象外となる。但し、トップアスリート参加資格特例措置対象者等の特例を除く）

※少年男子 B3000m に出場の意志がある選手は、国民体育大会陸上競技栃木県予選会に必ず出場すること。

2. 選考対象競技会（国体予選会を含む参考競技会）

※選考する際には以下の競技会の実績も参考とする。

- 1) 成年
日本選手権・各地区インカレ・各地区実業団・日本グランプリシリーズ(プレミア含む)・日本学生個人選手権
- 2) 少年 A・B・共通(高校生)
全国高等学校総合体育大会陸上競技大会・関東高等学校陸上競技大会
- 3) 少年 B・共通(中学生)
栃木県中学校春季体育大会陸上競技大会
栃木県中学校総合体育大会陸上競技選手権大会
関東中学校陸上競技大会

3. 選考基準

- 1) 国体選考基準記録の有効期間は、2019年4月1日～2019年8月9日とする。
(長距離種目においては、2018年10月10日～2019年3月31日までも参考記録とする)
- 2) 期限内に(一財)栃木陸上競技協会強化部が設定する国体選考基準記録(A・B)を突破している種目、または2019年8月9日時点での全国ランキングを参考に国体において入賞する可能性が高いと判断した選手がいる種目から選考する。その際、選考の優先順位は以下の通りとする。

- ①A基準突破者 ②全国ランキング上位者(入賞可能な選手を優先) ③B基準突破者
④リレーの編成 ⑤全国ランキングを参考

- 3) 該当者が複数いる場合や、基準記録に近い記録を出している選手がいる場合は、各種選考対象競技会(国体予選会を含む参考競技会)を考慮して実績のある者を優先する。
- 4) 特に少年種別に於いて、今季ベスト記録に差がない場合または、全国高校総体・関東高校で特筆する結果がない場合は、国民体育大会陸上競技栃木県予選会の結果を重視して選考する。
- 5) リレー種目については、男女とも編成することを前提とし、国体予選会及び選考対象競技会の実績を参考に特性を考慮して選考する。その際、リレーに関わる一部の候補選手が(一財)栃木陸上競技協会強化部が設定する国体選考基準記録(A・B)を突破していなくても編成することがある。

- 6) 但し、リレー種目のチーム編成に関して以下のような状況の場合は編成しないこともあり得る。
○国体選考基準記録(A・B)突破者が1名以下の場合
○国体選考有効期間内におけるリレー候補選手の100m記録の合計がガイドラインを超える場合。
(※直近国体過去3大会(福井, 愛媛, 岩手)分)でのリレー予選通過記録を参考)
【ガイドライン】 <男子> 42 秒 80 <女子> 48 秒 80
- 7) 少年男子 B3000m の選考については、国民体育大会陸上競技栃木県予選会の結果を重視する。ただし、高校生で、全国高校総体での入賞者が複数いる場合は、全国高校総体および国民体育大会陸上競技栃木県予選会の結果により選考する。また、中学生がいる場合は、直近国体過去3大会分の第8位記録の平均タイムを突破しており、且つ、関東中学陸上において優勝した者を選考対象とする。
【直近国体過去3大会 少年男子 B3000m 決勝の8位平均タイム】 8'32"47
- 8) 上記の過程による選考を終えても国体出場最大枠である29名に満たない場合は、29名以下での選考もあり得る。

4. 確認事項・その他

- 1) 国体に参加の意思のある競技者は、別紙の「国民体育大会参加資格について(選手用)」を必ず一読すること。
- 2) 栃木陸協強化部が設定する国体選考基準記録(A・B)の突破は、国体候補選手の内定とは限らない。
- 3) 選考対象選手であっても、選手選考時点で怪我や病気等の問題が生じている選手については選考しない場合がある。
- 4) 国体候補選手の内々定については、(一財)栃木陸上競技協会 評議員会の承認を経た後、各所属長または本人宛に郵送をもって通知する。(内定者のみ通知する)
- 5) 選手決定後、怪我や病気等の問題が生じた選手については選手変更もあり得る。
- 6) 選考された選手(特に県内選手)は、原則として国体強化練習会・合宿に必ず参加すること。参加しない選手は内定(決定)を変更する場合もある。

(参加人員・出場制限・国体参加資格等)

- * 選手団編成監督(2名)・選手29名(男子選手19名以内、女子選手19名以内)計31名とする(監督兼選手(1名)の場合は、参加選手30名を選考することができる)。
- * 1種目1名、同一人の出場は2種目までとする。ただし、リレーは除く。
- * (一財)栃木陸上競技協会が定める上記1.の県国体予選会に出場しなかった選手、または出場しなかった種目については選考対象外となる。ただし、1種目の予選のみに出場し、その種目の代表選手となった者は、予選に出場しなかった他の1種目にも出場することができる。
- * リレーチームの編成は、男女とも成年、少年A、少年Bから各1名、残りの1名は成年、少年A、少年Bのいずれかの種別とする。リレーに出場する者は、予選会のどの種目であっても参加していれば出場できる。
- * 成年女子5000m競歩には、少年女子Aからもエントリーできる(成年少年いずれか1名)。
- * 成年男子10000m競歩の出場者は、5000m競歩の予選を経た者でもよい。少年男子共通5000m競歩、成年女子5000m競歩の出場者は、3000m競歩の予選を経た者でもよい。
- * 成年女子走高跳には、少年女子Aからもエントリーできる(成年少年いずれか1名)。
- * 成年女子棒高跳には、少年女子Aからもエントリーできる(成年少年いずれか1名)。
- * 少年男子B3000mの出場者は、1500mの予選会を経た者でもよい。
- * 監督は、日体協公認スポーツ指導者制度に基づく公認陸上競技コーチ、公認陸上競技上級コーチ、または公認陸上競技指導員、公認陸上競技上級指導員の資格を有する者とする。
- * ふるさと選手制度については、第74回国民体育大会実施要項総則5(別記1を含む。)の規程による。
- * 第74回国民体育大会におけるトップアスリート参加資格特例措置対象者(該当種目に限る)については、(公財)日本スポーツ協会が定める特例の内容に準じて選考の対象とする。

※赤字下線部分は昨年度からの主な変更点